

掲載日	タイトル	catch the eye ～目にとまる日常風景～
2013/4/2	桜咲く	さくら、サクラ、桜。幹線道路ぞいの小さな公園。車道を背にすれば小さな里山。丘を抱きこむ桜の木々。てっぺんにのベンチに桜の屋根。憩う若中老年女子。さくら、サクラ、桜。
2013/4/3	好感	仕事帰りのデバ地下。混みあう主通路。とっさに左の通路へ逸れようとした先に、右から前を横切る女性。白の春コート、メンズのビジネスリュック、右肩にはレディースのショルダー。空いている通路を早足でぬけていった。年の頃は30半ば、“弁護士？コンサル？”。チラッとみた横顔、引き締まった印象。見送る背に好感。
2013/4/5	赤いほっぺ	今日はまるで初夏。桜は葉桜、桃は満開、サツキも咲き始めた。梅田の街なか、サツキの赤い花のようなほっぺの男の子。若いパパに抱かれて、後ろを歩くこちらを見ている。ほんのりピンク色というのではなく、本当に真っ赤。まん丸く赤いほっぺ。もしかして、画いてる？！
2013/4/8	新緑	櫻が芽吹いてきた。ビル3階から見える向かいの木々。扇状にひろがる葉を待つ枝。その右一画だけにしたおやかな薄緑。昨日の雨できれいになった空気。少しひやっとする風。澄んだ青い空。まぶしい陽射し。新緑の季節の今日は入り口。
2013/4/10	就活	簡単に、安価に、それなりに空腹を満たせる饅頭チェーン店。就活スーツ女子が店から出てきたかと思うと、別の女子が店内へ入っていく。街を歩きまわり、交通費もばかにならない彼女たちの孤独なたたかい。つかの間、あったかい饅頭で一息か。
2013/4/11	グランフロント大阪	おーお！いよいよ出ましたか。2週間後にせまった街びらき、同時にオープンするホテルの名が玄関前に据え付けられた。幹部か、二人の外国人男性をそれを眺めていた。いま大阪駅周辺では日頃みかけない人たちが行き来する。ここに入るショップや企業のエライ人たちが最終チェックに訪れている模様。さて、この新しい街、コンセプトどおりに機能するだろうか。
2013/4/13	地震	ガタツときた。そのまま静止しておさまるのを待った。しかしあらためて揺れ始めた。ヒャーッ、思わず声が出た。瞬間、阪神大震災の時がよみがえった。これだから、原発はダメでしょ、とも思った。今朝5時33分の地震、大阪市内は震度3、でも体感はそれ以上。まさかこれが前兆でないことを願う。
2013/4/15	カエル君	ビルの谷間のオアシスカフェ。新緑のもみじの葉が陽射しにキラキラ。その下のベンチに寝そべるカエルの置物。仰向けに寝っころがり、膝をたてて足を組み、右手を枕に、大きく見開いた目は通りすがりの人々にこれ見よがし。あーあ、いいね、おまえさんは。
2013/4/16	カエル君	今日は頭を西に寛ぐカエル君。陽射しがお腹に反射する。ベンチを陣取り、緑に囲まれ、気持ちよさそうね、君は。うらやまし。どこでみつけたきたのか、この置物。これは買わなきゃ、と思ったに違いない。そもそも誰がつくったのやら。さて、雨降りにはどうするかしら、持ち主は。
2013/4/18	人への感度	朝の混みあう地下鉄車内。スマホにかぶりつく人々。目をあげることはほとんどない。周りが気に入らない。画面をひとさし指で激しく上下させる女性あり。座っている背のガラス窓に画面が映った。たくさんのマス目に絵柄の入ったゲーム。無表情でただただ必死に指を動かしている。ストレスがたまっているのか、ゲームがそうさせるのか。

- 2013/4/19 オープン直前 新聞に「うめきた」竣工式の記事。昨日しきりにヘリコプターが飛んでいった。たぶんメディアへのお披露目があるのだろうと思っていた。一週間後にせまる街開き。今はまだ閉ざされた建物内、オープン準備に追われる人々の姿を想像。外まわりは工事関係者の最終チェック作業。外から見えるビル内の照明。いまかいまかと待つ様子。
- 2013/4/20 直筆！ 「風姿花伝」の直筆本?! 新聞記事にぐっと近づける顔。観阿弥生誕680年、世阿弥生誕650年記念「室町の花 観世宗家展」、相国寺の承天美術館で5月26日まで。本棚から手にとるワイド版岩波文庫。読んだのはいつだったか。見返しの走り書き、2002年3月26日(月)。目にうかぶ11年前の情景。あの頃は……。本から一節、『秘する花を知る事。秘すれば花なり、秘せずば花なるべからず、となり。この分け目を知る事、肝要の花なり』。
- 2013/4/25 オープン前日 いつのまにか藤が満開。若葉とツーショット。ゴールデンウィーク目前。グランフロントは明日オープン。近隣のビルも外壁のお化粧直しをしてその時を待つ。想像される明日の喧騒。
- 2013/4/26 オープン！ 「うめきた」いよいよオープン。前夜のうちに、工事中の柵は外され、下見の人の輪にはいる。南側、駅前あたりを見る。なかなかいいものができた。今朝は事務所に近い北側へ。億ションとホテルの間にほどよい庭。全体の広さからすると、緑の割合は少ないが、ちょっとした憩いの場にはなりそう。
- 2013/4/27 「お散歩気分」 オープン二日目、しきりと飛ぶヘリコプター。連休初日、「うめきた」に人が集っているとの報。昨夕の帰り道、「うめきた」最北の庭園側から入ったビル内。新聞によると、コンセプトは「お散歩気分」、たしかにそんな感じ。川あり、緑あり。仕事の合間の散歩がしやすくなる。事務所にいる間のライフスタイルが少し変わりそう。
- 2013/4/29 裏方 まだ人もまばらな午前9時前、持ち場へ移動するガードマンの列、そこかしこに来場客を誘導する行列の柵。今日も喧騒が予想されるグランフロント。最北の庭園も来場者のための準備。体を屈め、右手にもった網で池のゴミをとる女性スタッフ。そばを通り抜け際、「おはようございます」。どうも、お世話します。

掲載日	タイトル	catch the eye ～目にとまる日常風景～
2013/5/2	寒い八十八夜	まるで冬の曇り空。予想最高気温は17度。しまう予定のウールのセーター、着たくなかったけど着る。あーあ、やはりあったかい。寒い幕明けの薫風五月、今日は八十八夜、五日は立夏。夏という響きをはるか遠い、今は。
2013/5/4	見学のみ?	今日も長い列、人が大挙して訪れる「うめきた」。しかしほとんどは見学のみ、買い物袋を持っていない。来館者は記録的ながら、買い物額は一人あたり800円程度とか。来月の今頃はどんな様相?
2013/5/6	不粋	火気厳禁の森林にたちこむ煙。木の多い、人の多いところである気が知れないバーベキュー。食べて飲んで、トイレにあふれる人。祭りの後の雑然が目にかぶ。清掃の人たちのため息が聞えそう。
2013/5/7	うめきたの庭	静けさを取戻した「うめきた」。ウォーキングがてら、地下鉄を梅田で降り、ルクア地下一階を通り向け、開店前の伊勢丹前をすぎて北の通路をみればグランフロントの領域。人はほとんどいない。エスカレーターで地上へ出て、ビルを右手に北へ歩けば、太陽の陽射しにあたらず、北端の庭へ行き着く。なんともよいコースができた。
2013/5/8	懸命な選択	大阪は今日も晴れ。お向かいJR西日本本社ビルを囲む緑が清々しい。まさに初夏の風景。しかし気温はまだ低い。昨日などはウールのハーフコートを着た女性。地下鉄車内、隣にすわっていた人。膝もとの素材が見えた。淀屋橋駅で降りる背中を見送りながら、さすがにそれはないんじゃないと思ったが、夜には、「懸命な選択でした」。
2013/5/10	天才、奇才	久しぶりに曇り空。昨日今日はいっきに初夏の気候。週の初めにはウールコートを着ていた人もいたが、街ゆく人々の服装にも統一感。その中で異彩を放つ女性あり。生花店の前で花をみつろっていた人。纏っているのはレースのカーテン?とおぼしき生地。淡いピンクとグリーンを纏がけて合わせクリップで留めているような……。金髪の髪の毛は鬼の頭のように立て、虹色のラメでキラキラ。年の頃は60代前半、パンクな天才か、浮世の奇人か。
2013/5/11	雨宿り	“あーあ、また降ってきたのか……”。昼食を済ませ、茶屋町の丸善で本を見ている間に再び雨。井上陽水ならぬ“傘がない”。「NU茶屋町」づたいに「三番街」へ移動。ますます強くなる雨。“そうだ、この機会にあそこへ……”。ハンカチを傘に、「Cafeゆう」へ。10年来前を通っているが入店は初めて。かえる君は今日も大きな目を開け、ベンチでお昼寝。雨の土曜の昼下がりに、がら〜んとした店内で午後のコーヒー。木造りの落ち着いた店内、雨に冴える新緑を目に、頭を働かせる。木々から滴る雨、新緑若緑が効を奏す。テーブルの置物もご愛嬌。
2013/5/13	予想どおり	いよいよ初夏の様相。昨日今日と晴れ渡った空。朝の散歩がてらにグランフロントを歩く。駅前の広場から北端の庭へ。みると、開店前の地下ショップ街に行列。もう?とお店を案内板で確認すると「シティー・ベーカリー」の行列。ちょっとクビをかしげながら地上へ。天井の高い外の通路。朝は音楽が流れている。広場の人口池、川に合わせているのか、ゆったりとしたピアノ曲。気分よく歩いていたその先に不粋な案内プレートがお目見え。自転車の通行禁止の呼びかけ。やはりこういうことになったか。せっかくの景観と空間。自分たちのためにも集う人が守りたい。

- 2013/5/15 外す 大阪駅隣接ルクアの地下街、カフェやベーカリーが午前7時から開いているとは知らなかった。朝の歩くコースを変えてみると小さな発見が一つ二つ。こんなことから、ちょっと外れる、外す妙味。
- 2013/5/17 若づくり なんとも気持ちのよい初夏日和。街ゆく人々の服装も軽やかになってきた。特に目につくのは中高年の女性。服装が若い。ただ、“若い”と“若作り”の差が微妙な場合あり。ちょっとそれはどうだろうと後姿を見送りながらわが身にふりかえり、気をとりなおして街を闊歩。
- 2013/5/18 ゴロワーズ 土曜の朝、FMcocoloから「かまやつひろし」の歌う『ゴロワーズを吸ったところがあるかい』、なかなか哲学的、思わず聞き入る。地下鉄の車内、昨日の夕刊を読み始めコラムに目がとまる。国立天文台副台長の『月を愛でる』。ちょうど昨宵、窓越しの明りに気づき半月を愛でていた。新聞を読み進み、生活・ひと面の「学びのふるさと」。「みうらじゅん」がお母さんからずっと言われ続けてきた言葉、『好きなものには何でもなれる』。「頂点に立つことを義務付けなければ、好きなことを仕事にするのは難しい話ではないかもしれない」。今も「あんたはやればできる」と励まされるそう。『好きこそ物の上手なれ』。
- 2013/5/20 『檸檬』 読み忘れていた土曜の夕刊を今朝読む。社会面に目がとまる。「丸善」京都復活のニュース。梶井基次郎の「檸檬」の舞台。2005年に閉店した旧店舗の並びに2015年春新開店するのだとか。梶井といえば、「櫻の樹の下には」。会社員時代、社内報にこの小説を紹介したことを思い出す。今おもえば、まわりには変わった人と映っていたのかもしれない。当時も今も、そういうことにあまり頓着しない性分が、いいのか悪いのか。
- 2013/5/22 「野に出よう」 昨日今日は初夏というには暑すぎる。新御堂の中津側から梅田方向をみると、モヤッとした街の風景。まだ五月なのに、夏の気だるさが漂う。晴れていても清々しくない。梅雨も視野に入ってきた。今のうち、大いに「野に出よう」。
- 2013/5/23 訃報 今朝FMのニュースに茂山千作さんの訃報。とっさに米朝さんのことを思い出す。二人は盟友、「私の履歴書」で米朝さんがそう語っていた。地下鉄の中で昨日の夕刊を読む。中面に米団治さんのインタビュー記事。父、米朝さんとの関係について語る最後に、『親をみるとは、家やどこかに残しているかもしれない不義理をきれいに整理して、次の世代へバトンタッチすること。ここまで来て初めて親孝行。今はそんなふうを考えています』。同感。この一月にそれを終えたばかり。
- 2013/5/25 錆びる五感？ ずいぶん前から車内で目につく光景。スマホに気をとられ自分の姿勢を変えない若い男性。空いた隣の席に座る人が窮屈にしているも微動だしない。相手の体がかなり触れている。それが気にならないのか。鈍い感度。度重なると、状況判断の衰え、自己中心なふるまい、ひいては貧弱な感性につながるのではないか。「catch the moment」と呼びかける人をテレビでみた。ほんとに、そう。もっと目をあげ、まわりを見て聞いて、感じ考えよう。そうでないと、五感が錆びる。
- 2013/5/28 射干 近畿も梅雨入りか、昨日の午後から曇り時々雨。グランフロントの庭では何かを植え替えるのか一画で職人さんが土作業。東京ミッドタウンほどの広さには及ばないけど、ビルの谷間に庭が備わったのはさいわい。今朝はシャガが「射干」と知った。へーと思う心に一服の旅感覚。

2013/5/30

鑑察と観察

企画をまとめる途中、漢字を調べる。漢字は着想の宝庫。コンセプトを練る場合、漢字の助けをよく借りる。ずいぶん前、「慣れ」と「狎れ」の違いもそういう中で見つけた。昨日は「鑑察」と「観察」。前者は「善悪をよく見定めること」、後者は「くわしく見て調べる、注意深く見ること」。ただ観察の観は、「もと農耕について神意をみること」（白川静「常用字解」）とか。「観察」は、見えるものから見えないものまでも見い出す、ということでもある。鑑察と観察の違い、覚えておこう。

掲載日	タイトル	catch the eye ～目にとまる日常風景～
2013/6/1	月山	今日から6月。カレンダー、日めくりをめくる。と、昨日の日めくり「そばの日」。あらっ、そうだったのか。知人に誘われ、山形のおそばを食べに行っていた、「山形」にそそられて。2006年から2010年にかけて通った山形。初めて行ったのはちょうど今の時期。「月山にはまだ雪が残っていますよ」。山形市内から藤島へ移動するのに月山を越える。そう聞いて、「えっ、月山?!」と声を張り上げた。先方はきょとんとしていた。「月山…、あの月山に行けるのか」と感激した。芥川賞受賞作品「月山」は「がっさん」と読む。それが妙に記憶に残っている。同時に何か神々しい感じがした。昨日のお店の名が「月山」。
2013/6/4	2つ目オープン	梅雨は小休止。大阪は晴れ。息抜きとがてらにグランフロント北館を歩く。みると、インターコンチネンタルの仕切りがとれていた。今日オープン? 壁面の案内プレートが目隠しもはずされていたから、いよいよ営業開始の様子。庭をはさんだ向かいの億ションの入居も8月には始まるとか。今のところグランフロントは見学の場所。さて、これからどんな場になるかしら。「大阪らしくない」となるのか。「結局、大阪」になるのか。
2013/6/6	目をひいた若い女性	地下鉄の上りエスカレーター、空いた左手を小気味よく上っていく女性の伸びた背筋。それだけで十分目をひいた。フレアぎみの黒のパンツに淡いブルーの縦縞シャツ。メンズっぽい着こなし、長い黒髪をポニーテールぎみにまとめ、手にはトート型の黒のバック。全体にシンプルだが、何か特別な感じがする。先に入った駅前のコンビニ、後ろからくるこちらにドアを開けて待つ。やることもスマート。いいものを見せてもらった気分。
2013/6/8	『タケウチ』跡にブックカフェ	梅雨はどこへ行ったのやら、連日晴れの大阪。朝晩は涼しく、日の入りはおそく、夕暮れ散歩によい。昨夕、御堂筋からうつぼ公園へと歩く。バラ園で人々が和む。空いた木のベンチでしばし書きもの。しばらくすると、ペンを動かす手の甲に蚊。この分だと、そこかしこ咬まれそう。早々に席を立つ。高い木々を見上げながら、歩く。ふと、旧「タケウチ」をみる。おっ、何かオープンしている。公園を一步出て、ガラス張りの店内をみると、壁一面に本が顔をみせて並んでいる。店の正面まで行って、出ていた案内板をみる。ほおー、ブックカフェ。公園のそばというロケーションはいい。こんなところでフランスのような「哲学カフェ」をやってほしいもの。
2013/6/11	プロフェッショナル	お昼前からまた晴れてきた。どうなっているのやら。今日は雨になると言うから日傘もサングラスも置いてきたのに。それはさておき、昨夜偶然知ってみたNHKの番組。大阪の居酒屋店主の紹介。あの列車事故の被害者がここにもいたのかという小さな驚きと同時に、肝に銘じること一つ。何にしても、どんな世界も大切なのは努力のつきかさね。ところであの店主、前にどこかで知っているような・・・、でも思い出せない。
2013/6/12	「何かもってる」	どうやら空梅雨模様。大阪は朝から晴れ、暑くなった。クーラーのよく利いた地下鉄車内で昨日の夕刊を読み、今日の朝刊を読む。夕刊に連載の『こころの玉手箱』。齊藤投手ならぬ、「何かもってる」という感じがしていた高田社長、その理由がわかったような気がした。オーナー経営者には魅力的な人が多い。サラリーマン経営者とは決定的に違う何かを持っている。仕事柄、そういう一面に出会えるのも役得。

- 2013/6/14 うめきた 暑い。6月半ばなのに梅雨明けしたような真夏日。ヨドバシへ行くのに外へ出たら、もわーとした空気。陽射しをさけ、運動がてら、グランフロントまわりのコースをとる。ついでに、まだ見ていない「うめきたセラー」を覗く。なんと賑わっていること。小粋なマルシェ。気軽に食事できるコーナーもたくさんある。もちろん圧倒的に女性客が占拠。対照的なのは、すぐ側の「伊勢丹」。戦線離脱の様相。
- 2013/6/15 土曜の雨 お昼前から雨。ずっと強く降っている。同じフロアで入社している会社は一社のみ。雨が響く。久石譲の音と雨音を片すみに、デスクワークに勤しむ。時間を忘れ、時々小さな発見をし、そういうことかと、頭をめぐらす。想像と創造の過程。インプットとアウトプットの掛け合い。窓打つ雨の音がいい合いの手。
- 2013/6/18 中村さん 久しぶりに中村さんの顔をみた。昨日の日経法務面。発明の対価をめぐってインタビューに応えたい。主張は以前と変わらないが、変わったのは顔の印象。7年前だったか仕事で徳島へ行った時、たまたま日本に戻っていたご本人と会った。朝食をとりに入ったレストラン、隅にどこかで見かけた顔。すぐにわかったが、声をかけるのは憚られた。でも、手元にはいつも携帯しているノートがある。躊躇している間に先方は食事を済ませ、レジへ。それを見て、静かに駆け寄った、「サインをお願いします」と。「サイン!？」と照れくさそうにしていたのが印象的だった。あの時からすると、精悍な感じといえば、そう。環境がそうさせるのか。
- 2013/6/19 (水 読み込まれた本 “何を读んでいるのだろうか・・・”。電車の揺れにふらつきながらも、熱心に本を読む中1ぐらゐの男子。相当に読み込んでいるようで、分厚い本の端が丸まっている。それに表装を手作りで貼り付けたのか、淡いオレンジ色。それほどの本。タイトルが気になる。聞いてみようかしら。そう思っていたところに、隣の席が空いた。そこへ男子が座った。いいタイミング。開いたページの天を見る。タイトルらしいものが書かれている。・・・、あーあ、ハリーポッター。なるほど、なるほど、たしかに好きそう。まだ小学生のような幼さが残り、勉強はそこそこできそうで、昆虫採集なんかも好きそうな感じ。どうぞ素直に育って。
- 2013/6/21 すり合わせ 今日は夏至。これから冬至にかけて後半のスタート。もう半分すぎたが、半分すぎたばかりでは、まだこの一年を特徴づけることは難しい。年初の想定と照らし合わせて、残り後半の流れを読むというのは出来にくい。自分の内に描く想定と、外からやってくる働きかけ。そのつどすり合わせて自分なりに判定する作業、これがけっこうおもしろい。“これはどういうことだろう、どういう意味をもっているのだろうか”。そう思考、思案していくと、物語が形成されて、新しい展開が想像される。その結果は未知数ながら、未来にリアリティーが生まれるところにおもしろ味。
- 2013/6/25 バッテリー続き 昨日も今日も、事務所でデスクワークする限りはクーラーなしでもしのげる。各階ごとにどこかの会社がクーラーの温度調整をする。昨日今日はだれも手をふれず、送風状態。部屋の窓を開け、外のほどよい空気をいれて机に向かう。それにしても、土曜は・・・と思ひ返す。出席した式典で、7年ぶりの人とバッテリー会った。さらに帰りの地下鉄車内、新聞を讀んでいたら声をかけられた。知人だった。個々のもっている時間の流れ、日々誰かと交差。それを認識する瞬間が、バッテリー。
- 2013/6/28 カタカナ FM京都のパーソナリティー佐藤さんは「言葉」についてよく語る。英語の先生でもあるから気になるらしい。よく「どうしてカタカナなんでしょうね」と、マニフェスト、ガバナンス、コンプライアンスに首をかしげる様子が目に浮かぶ。今朝のコメント、カタカナに頼る安直な精神構造、といったような話をされて、それはそうだと頷いた。耳がいたい。